

バイオを知る

くらしとバイオ LETTER 15

特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21

2018年10月号

活動報告



くらしとバイオプラザ21 通常総会記念講演

「メディアのあり方を問うファクトチェックはどこまで可能」

2018年5月17日、銀座フェニックスにて、くらしとバイオプラザ21 通常総会記念講演会を開催しました。お話は小島正美さん（毎日新聞編集委員 当時）による「メディアのあり方を問うファクトチェックはどこまで可能」でした。プレスリリースが記事になるときに、どんな情報のずれ（メディアバイアス）が生じたか、それを防ぐにはどのような情報発信がよいのか、消費者はどのようにそれを受け取っているのか、いくつかの新聞記事を例にとって話されました。中には、ほとんど根拠からかけ離れた記事（トンデモ記事）があることも紹介されました。一方、専門家から情報発信がうまくいって、正確な報道がなされた事例も挙げられました。企業、研究者、行政、生協、メディアなど、いろいろな参加者は、各々が日々、取り組んでいる課題と照らし合わせて考え、話し合う機会となりました。



告知:2018年11月11日 サイエンスアゴラ ステークホルダー会議「ゲノム編集作物を食べますか」

ステークホルダー会議「ゲノム編集作物を食べますか」というワークショップを行います。話題提供の後、グループに分かれて話し合い、消費者だけでなく、生産者、加工食品業者などの立場（ステークホルダー）に立って考えてみましょう。

日時 11月11日（日）14時30分～16時

場所 テレコムセンター8階 会議室D

話題提供

筑波大学生命環境系 教授 大澤良氏
大阪大学大学院工学研究科 教授 村中俊哉氏

コメンテーター

食生活ジャーナリストの会 代表幹事 小島正美氏



小島正美氏



大澤良氏



村中俊哉氏



*会場写真は2017年
サイエンスアゴラより

参加申込方法：定員40名 当日受付もしますが、できるだけ事前登録をお願いします。参加希望者は、「サイエンスアゴラ2018WS参加希望」として、氏名、連絡先（メールアドレスなど）を記入し、くらしとバイオプラザ21までメール（bio@life-bio.or.jp）かFAX(03-3669-7810)にてお申し込みください。グループ分けは事務局で決めさせていただきます。

2018年8月29日 がんゲノム医療座談会開催



医師、メディア、教員などで集まり、がんゲノム医療の持つ課題について意見交換を行いました。初めに東京大学医科学研究所 安井寛特任准教授より、「がんゲノム医療と創薬、Public Awareness」という話題提供がありました。がんゲノム医療が進むとどんなメリットがあるか、そのためにはゲノムリテラシーの醸成が大切！そして、ヒトに関する生物学の教育のあり方等、活発な話し合いを行うことができました。

2018年5月18日 ifia JAPAN 2018 第23回国際食品素材/添加物展・会議「食品表示とリスクコミュニケーション」セミナー開催

ifia科学ゾーンでリスコミセッションを開催し、200名近い方にご参加いただきました。消費生活コンサルタント 森田満樹さんに「気になる食品表示制度改正のポイント～遺伝子組換え表示と添加物表示の今後」、名古屋大学大学院教授 立川雅司さんに「知っておきたい海外の遺伝子組換え食品関連の規制」をそれぞれお話をいただきました。



2018年6月10日 サイエンスカフェコーディネーター養成研修会開催

新しい育種技術（NBT）社会実装プロジェクトの一環として、サイエンスカフェコーディネーター養成研修会アドバンストコースを日本サイエンスコミュニケーション協会（JASC）との共催で行いました。サイエンスコミュニケーター、学生、教員ら、サイエンスカフェ開催者やサイエンスカフェを開催したいと思っている人、12名が参加しました。話題提供の後には、サイエンスカフェでの課題をカードに書いて、時系列に出し合い、整理し、経験談を交えて話し合いました。研修会では、「サイエンスコミュニケーションとは」をテーマに渡辺政隆さん（日本サイエンスコミュニケーション協会 会長）、「育種（ゲノム編集を含む）について」をテーマに小松晃さん（農研機構 生物機能利用研究部門 上級研究員）に話題提供をしていただきました。



2018年6月25日 コンシューマーズカフェ開催「科学技術の受容における市民の心理～放射線からゲノム編集まで」

くすりの適正使用協議会 会議室にて、大阪学院大学教授 田中豊さんをお講師にお迎えして、「リスク認知と不安因子」をテーマにコンシューマーズカフェを開催しました。冷静に判断できる良識ある市民となるためにはリスク教育が重要であり、リスクコミュニケーションに介在するコミュニケーターへのポジティブな感情が、意思決定に影響するとお話をいただき、参加者のみなさんと熱心に話し合いました。



ゲノム編集技術をめぐるサイエンスコミュニケーション

8月21日 ゲノム編集技術の情報に関する心理実験に参加

つるやホール(大阪)で、ゲノム編集技術社会実装プロジェクトの一環で行われる心理実験に参加しました。アクティブラーニング(生徒の自主性を重んじる教育手法)をとり入れ、ゲノム編集技術に関する情報提供を将来の社会に影響を与える高校生・大学生に対して行いました。実験をデザインされた大阪学院大学教授 田中豊さんは、原子力、遺伝子組換え食品、食品添加物をめぐるリスクコミュニケーションにおいて、説明の仕方、時間などを変え、どのような条件だと理解が進むかを研究されてきました。当日の説明役は立命館宇治高校 生物教師の川本健太郎さんの、わかりやすくユーモアのある解説に参加者もスタッフも引き込まれてしまいました。

ゲノム編集技術の情報に関するワークショップに参加

5月14日、6月4日、大阪府立大学で高校生のためのゲノム編集技術に関するワークショップが開かれました。5月14日は、ゲノム編集技術によってつくられる涙の出ないタマネギ(お話 大阪府立大学大学院教授 小泉望さん)、6月4日は同技術を用いて開発中のソラニンのできないジャガイモ(お話 大阪大学大学院教授 村中俊哉さん)について、高校生がグループごとに話し合いました。6月4日はくらしとバイオプラザ21が考案した、ステーキホルダー会議という手法を用い、消費者、生産者など、様々な立場を想像しながら、意見を出し合いました。研究者も唸ってしまうような、意見が飛び出しました。



バイオカフェの



この頃



5月25日 東京テックカレッジ
産経新聞 平沢裕子さん
「ジャーナリズムにおける食のリスクコミュニケーション」



6月16日 蒲郡生命の海科学館
増養殖研究所 正岡哲治さん
「魚好きのためのバイオテクノロジー」



6月24日 多摩六都科学館
農研機構 佐々木克友さん
「世界にひとつだけの花をつくる」

これからのバイオカフェからのお知らせ

お誘い合わせのうえ、お気楽においで下さい。美味しいお茶とお菓子をご用意しています。会場により事前申込みの有無、参加費が異なります。詳しくはホームページ イベント情報をご覧ください。

- 10月4日(木) 栄サインストーク(名古屋)「新しいカンキツをめざし～品種改良の最新技術」
農研機構 後藤新悟さん
- 10月13日(土) 新潟県立自然科学館「ゲノム編集とカレーライス!?!」 大阪府立大学大学院 小泉望さん
- 10月20日(土) indriya(青森県 弘前)「これまでに無かった新しい品種改良のおはなし～“弘前発”接ぎ木で品種を改良する方法」弘前大学農学生命科学部 葛西厚史さん
- 10月21日(日) 愛知県図書館カフェ 「ゲノム編集で新しいタイ・フグをつくる」
京都大学農学研究科 木下政人さん
- 11月4日(日) ふじのくに地球環境史ミュージアム「最新ゲノム編集のお話とワークショップ」農研機構 小松泉さん・SCプラザ 岩崎博さん
- 11月10日(土) 千葉県立現代産業科学館 「世界にひとつだけの花をつくる」農研機構 佐々木克友さん
- 11月22日(木) 三鷹祇園大学 「タンポポ」 タンポポ工房 保谷彰彦さん

実験教室報告



2018年度は、日本橋キッズタウン、国立科学博物館サイエンススクエア（東京 上野）、国際フォーラムキッズジャンボリー（東京 有楽町）などの大きなイベントに仲間入りさせていただき、実験教室を開きました。この3か所7日間だけで、400名を超える親子のみなさんと実験を楽しむことができました。

このほかに、シルクファクト（長野 岡谷）、科学技術館（東京 竹橋）、千葉県立現代産業科学館、白井市青少年・女性センター（千葉）、函館青少年センター（北海道）でも行いました。

8月18日

はこだて国際科学祭「キッチンサイエンス～カラマジックケーキ」では、7月の申込み開始1時間で予約が定員に達する人気で、函館新聞にとりあげられました。

7月26-27日

サイエンススクエアでは、1日4回、2日間、「美味しい野菜のヒミツ」を開催しました。毎回、満席で保護者のみなさんも熱心に協力してくださいました。



講師派遣報告 2018年4月～2018年9月

- 4月23日 東京大学 講義 生命倫理「ゲノムリテラシー」
- 6月4日 大阪府立大学 ファシリテーション
- 6月12日 筑波大学 講義 サイエンスコミュニケーション実践講座
- 6月22日 東京農業大学 特別講義「サイエンスコミュニケーションの魅力」
- 7月3日 「ゲノム編集とその利用に関するセミナー」 講演
- 7月9日 東京大学 講義 フードクリエイション「新しい食品との出逢い」



会員特典

私たちの活動を応援してくださる協力(個人)会員を(1口 2,000円～)常時募集しています！
会員になるとイベントに関する情報が優先的に得られたり参加費が安くなることもあります。
もちろん、バイオレター（紙媒体）もお届けします(2回/年)

編集後記：8月1日、「第1回がんゲノム医療推進コンソーシアム運営会議」が厚生労働省で開かれ、遺伝子の情報を上手に使う、副作用が少なく、効果が現れる治療が推進されるような仕組みづくりが始まりました。くらしとバイオプラザ21では、日本人のふたりに一人が「がん」になるということは、患者さんとがんでない人が共に暮らしやすい環境づくりも必要だと考え2015年から、「がんに挑む」バイオカフェシリーズやシンポジウム「がんの治療を選べる時代がやってきた」を行ってきました。いよいよ、がんゲノム医療が注目され、あらゆる立場の人に優しい環境をめざして、「今、できること」「これから、なくてはならないこと」を皆様と考えていきたいと思ひます。

NPO法人 くらしとバイオプラザ21

<http://www.life-bio.or.jp>

編集 佐々義子・二瓶美郷

カット 中村典子

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町3-5-3 日宝茅場町ビル8階

電話：03-5651-5810 FAX：03-3669-7810

e-mail: bio@life-bio.or.jp

